

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (サウンドクリエイターコース)	
専攻実技 1	
第4回	グレード4対応。ドラムセットの仕組みを理解し、単純なリズムセクションの作成が行える。
第5回	グレード5対応。コードトラックを使用し、作成したコード進行をmidiトラックに置き換えることができる。それをモチーフとして、セクションの骨組みを作ることができる。
第6回	グレード5対応。セクションの骨組みから、ワンコーラスに発展できる。
第7回	グレード5対応。ワンコーラスの骨組みを完成することができる。
第8回	グレード5対応。ワンコーラスの骨組みをブラッシュアップし、ミックスし、提出することができる。
第9回	完成曲を学生全員で聞き、個別の弱点を把握できる。
第10回	グレード6対応。Key=Cを基準とした様々な作曲方法を学び、スピーディーかつクオリティの高い作品制作のTIPSを習得できる。
第11回	グレード6対応。Key=Cのコード進行に白鍵のみでメロディのモチーフを作成することができる。
第12回	グレード6対応。モチーフをきっかけとして、セクションの骨組みを作ることができる。
第13回	グレード6対応。セクションの骨組みから、ワンコーラスに発展できる。
第14回	グレード6対応。ワンコーラスの骨組みを完成することができる。
第15回	グレード6対応。ワンコーラスの骨組みをブラッシュアップし、ミックスし、提出できる。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 1 (Gt)											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	岡			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
個性を伸ばすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で行われる。本科目はグレード対応科目になっており、1 年次後期はグレード 6 ～ 1 0 に準拠して授業を進行する。グレードの内容を段階的に習得していくことで、プロミュージシャンに必要な技術や知識を身につけ、学生個々の音楽スタイルに生かした演奏を出来るようにする。											
到達目標											
各グレードの内容を習得することによって技術と知識を身につけ、ギタリストとしての音楽的表現の幅を広げ、個々の目指す音楽に生かしたプレイが出来るようになる。他学生のプレイスタイルや音楽性を知ることが出来るグルーブレッスンの利点を生かして、共に刺激し合って上達を目指す。											
授業方法											
練習用ギターアンプで適量の音を出しながら講師の用意した課題に取り組み、アドバイスを受けて習得する。ギター、シールド、ストラップ、チューナー、ピック等演奏に必要なものを持参すること。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
適宜資料を配布する。											
回数	授業計画										
第 1 回	グレード 1 対応。ローコードによるストロークを行うことが出来るようにする。										
第 2 回	グレード 1 対応。ローコードによるストロークを行うことが出来るようにする。										
第 3 回	グレード 2 対応。クラシック式フィンガリングによるクロマチック演奏、バレーコードのアルペジオでの綺麗な発音、を出来るようにする。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 1 (Gt)	
第 4 回	グレード 2 対応。クラシック式フィンガリングによるクロマチック演奏、バレーコードのアルペジオでの綺麗な発音、を出来るようにする。
第 5 回	グレード 2 対応。クラシック式フィンガリングによるクロマチック演奏、バレーコードのアルペジオでの綺麗な発音、を出来るようにする。
第 6 回	グレード 3 対応。何弦何フレットが何の音か、ネックの端から端まで音名を把握する。
第 7 回	グレード 3 対応。何弦何フレットが何の音か、ネックの端から端まで音名を把握する。
第 8 回	グレード 3 対応。何弦何フレットが何の音か、ネックの端から端まで音名を把握する。
第 9 回	グレード 4 対応。 3 コードブルースのバックイング、ペンタトニック・スケールを使ったソロ、を出来るようにする。
第 10 回	グレード 4 対応。 3 コードブルースのバックイング、ペンタトニック・スケールを使ったソロ、を出来るようにする。
第 11 回	グレード 4 対応。 3 コードブルースのバックイング、ペンタトニック・スケールを使ったソロ、を出来るようにする。
第 12 回	グレード 5 対応。調号が指定された状況で、メジャースケールと 3 コードを弾けるようにする。
第 13 回	グレード 5 対応。調号が指定された状況で、メジャースケールと 3 コードを弾けるようにする。
第 14 回	グレード 5 対応。調号が指定された状況で、メジャースケールと 3 コードを弾けるようにする。
第 15 回	グレード 5 対応。調号が指定された状況で、メジャースケールと 3 コードを弾けるようにする。

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 1 (Ba)	
第 4 回	ピック奏法で各弦を安定した16ビートで弾ける。
第 5 回	Cメジャースケールを2オクターブフィンガーで弾ける。Grade2
第 6 回	Cメジャースケールを2オクターブをピック奏法で弾ける。
第 7 回	他のメジャースケールを2オクターブをフィンガー奏法で弾ける。
第 8 回	他のメジャースケールを2オクターブをピック奏法で弾ける。
第 9 回	Cナチュラルマイナースケールを1オクターブ弾ける。Grade3
第 1 0 回	他のナチュラルマイナースケールを1オクターブ弾ける。
第 1 1 回	他のナチュラルマイナースケールを2オクターブピック奏法で弾ける。
第 1 2 回	メジャー、マイナーペンタトニックスケールを1オクターブ弾ける。Grade4
第 1 3 回	メジャー、マイナーペンタトニックスケールを2オクターブ弾ける。
第 1 4 回	メジャー、マイナースケールの各種フィンガートレーニングパターンが弾ける。
第 1 5 回	コードネームを見てルート音、各スケールが弾ける。Grade5

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 1 (Dr)											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	田原歩			実務経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
グレード対応科目となっており、グレード6～10に準拠して授業を進行する。常に力みがないかを確認しながら16分音符を中心とした様々なフレーズ、リズムパターンを使ってスピード感、キレを意識した演奏を指導する。手足を混ぜたコンビネーションフレーズも、体の軸がぶれずに安定したドラムを叩けるように指導する。また装飾音符にも丁寧に取り組み、ダイナミクスを操り、立体感のあるドラミングについて指導する。											
到達目標											
楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、ドラムを演奏する上で不可欠な合理的なプレイフォームを学ぶ。プロとして活動することを前提とし、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲が求めているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある演奏力を身につけることを目標とする。											
授業方法											
各1人ずつドラムセットについて指導を受ける。あらかじめ組み立てた基本的なカリキュラムに沿って授業を実施しつつ、学生一人一人と向き合いそれぞれが抱える悩みや弱点を常に確認し、それらの改善の為に最良な方法を提示する。最終的な目標・到達点・修得したい技術なども一人一人の要望を聞き出し、その実現のために必要な技術、知識を指導する。またテクニカルで修得した技術の実用的な応用方法も合わせて指導する。											
成績評価方法											
試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する)平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
なし											
回数	授業計画										
第 1 回	セッティングとフォームについての理解。/グレード1対応。セッティングとフォームがわかる。										
第 2 回	音符と休符についての理解(1)。/グレード2対応。4分音符、8分音符またそれぞれの休符を理解し、叩ける。										
第 3 回	音符と休符についての理解(2)。/グレード2対応。16分音符、3連符をオルタネイトスティッキングで叩ける。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 1 (Dr)	
第 4 回	バスドラムについての理解。/グレード1対応。バスドラム、フットペダルの特徴を知り、正しい踏み方ができる。
第 5 回	8ビートとフィルインについての理解(1)。/グレード8対応。基本的な8ビートに合わせて8分音符のフィルインが叩ける。
第 6 回	8ビートとフィルインについての理解(2)。/グレード8対応。様々な8ビートを叩き、16分音符、3連符のフィルインが叩ける。
第 7 回	リズムの基礎についての理解(1)。/グレード3対応。フル、ダウン、アップ、タップストロークを正しく理解し、叩ける。
第 8 回	リズムの基礎についての理解(2)。/グレード3対応。4分、8分、3連符、16分音符をつなげて叩くチェンジアップができる。
第 9 回	シングルストロークについての理解(1)。/グレード4対応。16分休符をランダムに含んだフレーズをナチュラルスティッキングで叩ける。
第 1 0 回	シングルストロークについての理解(2)。/グレード4対応。ランダムな休符を含んだ3連フレーズをナチュラルスティッキングで叩ける。
第 1 1 回	リズムの基礎についての理解(3)。/グレード3対応。付点4分、付点8分音符を理解し、叩ける。
第 1 2 回	アクセントについての理解(1)。/グレード5対応。16分音符のアクセント移動が叩ける。
第 1 3 回	アクセントについての理解(2)。/グレード5対応。3連符のアクセント移動が叩ける。
第 1 4 回	アクセントについての理解(3)。グレード5対応。フィルインのなかでアクセントを移動させて叩ける。
第 1 5 回	全体のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 1 (Key)											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	杉本			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
ピアニスト、キーボーディストとしての基礎テクニックの向上と、プロキーボーディストになる上で必要なコード、スケール、リズム（フルーヴ）を実践的に理解して演奏しえ行くことを目指す。この授業では、学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップミュージックの本質を学び、現代的センスも取り入れながら、よりクオリティの高い技術表現を身につける。											
到達目標											
1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。著名なキーボーディストの演奏テクニックの完全な再現ではなく、彼らのフォーム、運指、スケール、コードボイシング、バックキングパターンをそれぞれ分析、理解し、自らの音楽性に生かしていけるキーボーディストを目指す。1年次においては、基礎的な奏法や理論を習得し、その上で装飾音のニュアンス、グルーヴといった応用につなげ、技術の質を高める。											
授業方法											
学生個々の個性を活かすことに留意しながら、個人レッスンやグループレッスン形式で進行する。音楽史に残るプレイヤーの技術をどのように吸収し、理解するか。それをどのように自分自身の音楽に取り入れて、未来に残せるかを意識しながら授業を進める。授業中での行動を通じて、学生の職業観を育成していく、学生自身の音楽人としてのキャリア像を自分自身の言葉で語り、構築できるようになることを目指す。											
成績評価方法											
試験40%(試験と課題を総合的に評価する)、提出物20%(授業内容の理解度を確認するために実施する。)、成果発表20%(授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する)、平常点20%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。)											
履修上の注意											
この授業ではキャリア形成の観点から、理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。プレイヤーを目指す表現者の一人としての積極的な授業参加を求めたい。音楽的コミュニケーションと良好な人間関係とは本質的に同義だと理解し努力すること。											
教科書教材											
毎回レジュメ・資料を配布する。参考書:キーボードバックキングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング											
回数	授業計画										
第 1 回	グレード1対応。音の三要素、音楽の三要素とキーボードの特性を理解できる。										
第 2 回	グレード1対応。正しいフォームで鍵盤を弾くことが出来る。										
第 3 回	グレード2対応。三和音(メジャー、マイナー、dim、aug)の違いがわかる。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 1 (Key)	
第 4 回	グレード2対応。三和音(メジャー、マイナー、dim、aug)、△7thノート、7thノートを半音で平行移動できる。
第 5 回	グレード2対応。四和音のダイアトニック ・コード、度数表記、ハーフディミニッシュとdim7の違いがわかる。
第 6 回	グレード2対応。四和音のダイアトニック・コード、ハーフディミニッシュとdim7を半音で並行移動できる。
第 7 回	グレード3対応。片手で運指練習(HANON)を弾くことができる。
第 8 回	グレード3対応。メジャー・スケールをペアレント・スケールとする7つのスケールについて習得できる。
第 9 回	グレード3対応。機能和声とモードの違いについて、またハノンなどのスケール練習法がわかる。
第 10 回	グレード4対応。身体運動と音楽のリズムについて習得し、4分音符、8分音符を演奏できる。
第 11 回	グレード4対応。3コードブルースのバックキングが習得できる。
第 12 回	グレード4対応。3コードブルースのバックキングと、ペントニックを使ってソロが取れる。
第 13 回	グレード5対応。調号が指定された状況で、メジャースケールと3コードが弾ける。
第 14 回	グレード5対応。メジャー・トライアドを半音で平行移動させフォームを習得できる。
第 15 回	グレード5対応。メジャー・トライアドの各種変形コードを演奏できる。